

# new 新九郎通信

発行 小田原市栄町2-13-3 (株) 伊勢治書店3F ギャラリー新九郎 木下泰徳  
kinoshita@iseji.net

いつの間にか 秋も深まり、夕食には鍋物の登場が増えてきました。早いもので今年もあと2カ月。伊勢治の店頭には今年も手帳が勢ぞろいしました。私も10月から使えるたて軸時間の手帳を買い早速活用しています。4月からのを長年使っていましたが、今は10月からが便利に感じるのは生活スタイルが変わってきたからかも知れません。  
インフルエンザのニュースも気になる季節です。今年は家族全員必ずうがい手洗いを励行して予防を心がけています。

## 新九郎 11月の展覧会のご案内



会 期	展 覧 会 名	見 どころ
11月4日(水)~9日(月)	柴野書道水墨画教室 第二回 詩・書・画展	遺墨 西脇雲石先生 茶園菁山先生 先師西脇呉石先生の持論「漢詩・書・画の三絶」を継承し研鑽しているグループ。13名の作品約30点。
11月12日(木)~16日(月)	ラ・パレット油絵展 同時開催どうま染色工房教室	「私は、人生から感じとったものを、そのまま絵に写しとる《アンリ・マティス》DMのハガキに添えられた文です。指原いく子先生の指導による洒落たフランス風の油彩画。12名の作品約60点。
11月18日(水)~22日(日)	下田翠雨& 書學會翠會書藝展	下田翠雨先生の教室展。児童から大人まで33名による書作品。篆刻の実演もあります
11月25日(水)~30日(月)	円居会作陶展	足柄に窯を持つ、西静恵先生の陶芸教室作品展。織部の緑と黒が美しいです。

### 近隣・友の会会員の展覧会情報

豊田幸夫創作展	11月5日~9日	ツノダ画廊
篠崎晴夫追悼展	11月4日~9日	お堀端画廊
石田象童展	10月31日~11月15日	すどう美術館月火休み
94回きつき会木版画展	11月11日~15日	小田原市民会館
94回きつき会木版画展	11月11日~15日	お堀端画廊
城米彦造展	11月12日~24日	寄りあい処こうづ
伊集院眞理子陶展	11月20日~29日	うつわ菜の花
浅倉貴子陶展	11月3日~8日	丹沢美術館(秦野)

### 新九郎デッサン会のご案内

開催日 平成21年11月13日(金)  
時 間 午後6時15分~8時45分  
場 所 ギャラリー新九郎  
会 費 1,000円

モデルはアマチュア、  
コスチューム

申込先 ギャラリー新九郎  
木下 携帯 090-9324-4084  
※イーゼル持参、  
画材(鉛筆、木炭、水彩、その他)  
但し油絵不可



### 地球交響曲ガイアシンフォニー第二番上映会 11月10日(火)18:30~20:30 会費500円

- 1 ジャック・マイヨール: 素潜り105メートル記録保持者、イルカの友[フランス]
- 2 14世ダライ・ラマ法王: チベット仏教最高指導者、東洋の叡智[チベット]
- 3 佐藤初女: 日本のすてきなおばあちゃん、日本の女性の生活の中の叡智[日本]
- 4 フランク・ドレイク: 天文学者、宇宙生物学者、地球外知的生命探査計画の父[アメリカ]

### ようこそ平塚美術館 平塚美術館学芸員 勝山 滋

平塚市美術館では「カーデザインの歴史」展を11月29日まで開催。写真はフェアレディZ Z34型(2008年)のクレイモデルです。制作者は日産自動車のクレイモデラーのチームで、工業用のクレイ(粘土)を使い、自動切削機で削りだしたあとモデラーが仕上げていきます。後輪周辺の造形は動物的なラインで、スポーツカーの典型を示しています。現在、車もデジタルデータでデザインされるようになり、そのデータの検証目的のためにこうしたモデルが作られるよう変化していますが、実際実物大のモデルを作成して初めてわかる部分も少なくないといえます。



フェアレディZ Z34型(2008年)のクレイモデル

# アトリエ訪問 第1回

「アトリエ 湘」

作家 住谷重光さん

大磯在住

新九郎ゆかりの作家のアトリエをお尋ねし、ご紹介する企画、アトリエ訪問です。第1弾は、この9月大磯に新しいアトリエを作られ ますます精力的に制作なさっている住谷重光さんをお尋ねしました。



ました。

大磯町高麗（こま）は平塚に近い大磯町のはずれ、高麗山（こまやま）を間近に観る閑静な住宅の中に其のアトリエはありました。築40年という平屋を大改造したというアトリエは、住谷さんと奥様の美知江さんのセンスとこだわり、そして大工さんの愛のつまった作品として見事にアトリエとして甦っていました。緑色の屋根に白の外壁が周りの緑とよく調和した落ち着いた外観、白いアーチ形ドアにはアトリエ湘のシンボルマーク「壺」が描かれ「創造の泉」とも見えるデザインがとてもマッチしています。アトリエの広さは10坪。白い壁と梁の出た室内には天窗からの自然光が麻製のシェードを通して柔らかい光を放っていてすっきり広々としていました。正面の大きなイーゼルと、遮光板にも作品展示にも使えるようなキャスター付き大スクリーン、壁には立体作品の展示にぴったりのかまぼこ型の台座、右手には押入れを改造した床の間があり、お二人の作品が素敵に展示されてい

光の作家とも呼ばれている住谷重光さんは、この天窗がことのほかお気に入りのようで、早朝より夕方までずっと明るさを保てることや、光の変化が肌を通して感じられるのが良いと話してくださいました。美知江さんは、長年のマンション暮らしでは聞く機会がなかった「雨音」が聞こえた事に感動されたとか。光、空気・・・自然を愛し追究されている住谷さんにとって、このアトリエは新たなインスピレーションの生まれる最高の環境になっているようでした。からっとした空気感が心地よく、取材中すっかり落ち着いてしまったのですが、このからっとした空気感にはちゃんと理由がありました。この壁は作品保護も兼ね、全て漆喰が手作業で塗られていました。こて跡の残るテラコッタ風の白壁が放っていたのは、柔らかな光だけではなく湿気を吸収するという素晴らしい役目も担っていたことに、作家としてのこだわりを感じました。



アトリエ訪問の醍醐味は 作家のパレットや制作過程の様子を間近に見ることが出来る事でもあります。引っ越し半月というアトリエには、オレンジ系ピンク系 黄色系の温かさと懐かしさを感じる何とも言えない色調の作品が、数多く掛けていました。現在12月の横浜での個展に向けて制作に没頭している重光さんは、連日日の出前に大磯の浜に出てはだしで歩き1日をスタートしているのだそうです。日の出を見るためです。この色の源は 太陽の生まれでる色であったのかと、作家の新たなチャレンジを垣間見せていただけた幸運に感謝でした。

朝7時、昼食のおにぎりをもち自転車でこのアトリエに来て制作を始め、夕方日の暮れとともに1日の仕事を終え帰宅するというスタイルは、自然とともに生きる農夫や職人のようでもあり、住谷さんの日焼けされたお顔が大変精悍に見えてきました。規則正しい実に豊かな生活の中からの「住谷ワールド」が生まれていることを知り、改めて「絵は人なり」の思いを強くしたアトリエ訪問でした。

木下和子

白秋のたどりし径にからたちをためつつがめつつ見つつ倦まずも

狭き畑に菜が植えてあり  
山の上は平たき尾根がつづきあて

空堀の底をたどりて行く径の  
途絶ゆるところ朽ち木にほひて

葉の繁る夏の桜木くぐりゆく  
のぼり路に来て涼風のあり

《短歌》 小峰 日野顯秀

童謡を歌ふ一団過ぎゆけり  
涼しき風が吹きてるにけり

小峰なる林の中の昼の闇  
音絶え絶えに鳴く虫のあり



四月に街なみ再発見展のモチーフ探しに「まち歩き」が行われました。「白秋の散歩道コース」は人気があり、友の会会員で画家の日野顯秀さんも参加され、その時に詠んだ歌二十首が神静民報九月十九日号に掲載されました。一部をご紹介します。

- 小田原のシンボルとして市民に愛されたウメ子さんのお別れの会が10月17日に城址公園で行われました。新九郎通信10月号で住谷重光さんのご厚志により、ウメ子さんの絵はがきを同封させていただきました。この絵はがきは「小田原城絵はがき」5枚組のセットのうちの1枚です。奇しくも9月17日小田原城の売店に納品させていただいた、その日がウメ子さんの命日となったのです。平成19年用の伊勢治オリジナル年賀状の中の1枚として描いて頂いたものです。その時はウメ子さんが還暦を迎えた年で話題になっていましたが、まさかこのような時がくるとは夢にも思いませんでした。ウメ子さんはいつまでも小田原城のあそこにいるような気がしていたものです。今年の伊勢治オリジナル年賀状にもウメ子さんが小田原城の脇で点景として描かれています。住谷さんの絵のおかげでウメ子さんもみんなの心に忘れられず残っていくと思います。
- 「朗読と弾き語りの夕べ」「ガイアシンフォニー映画会」「西洋美術史のお話」文化の秋にふさわしいアフター6のイベントにも。沢山の方が参加くださいました。心豊かな時間をともに楽しむ友の会の仲間としてどうぞ気軽にご参加ください。
- すどう美術館コレクション展（新九郎）、現代アート版画展（ダイナシティウエスト）とコンテンポラリーの展覧会が続きました。小田原ではなじみの薄い現代アートですが、ご覧頂いたお客様には喜んでいただけたようです。現代アートの魅力をもっとみなさんにお伝えしていけるよう、工夫していきたいと思ひます。 ⊕